

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1997-11-18
№89

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番八
徳島八十二番一〇番八
電話 八二二一八八二二
振替口座 〇八二二一八八二二

政治を国民の手にとりもどすため 西岡るり子さんを推薦

高退協拡大事務局会

去る九月十七日、高退協は拡大事務局会議を開きました。議題は参議選への対応で、参加者は三十名でした。冒頭に、山原さんの政局の報告と西岡さんの決意表明をうけ討議を開始しました。具体的には、西岡さんの推薦と確認団体「政治を国民の手にとりもどす会」への加入が要請、提起されていきました。

勿論、来年夏の参議選を「老人いじめ、戦争準備」の悪政を転換し民主政権樹立の第一歩にしようという点ではみんなの意見は一致していたと思えますが、国政選挙で特定候補を推薦して闘うことは初めての経験で、「政党支持自由の原則」とかかわって一定の解明が必要でした。「政党支持自由の原則」は、総会決議の「政党支持の自由の原則を尊重しつつ、政治の革新と憲法改悪阻止、日米安保体制打破の革新統一の運動に参加します。」の趣旨に従うものと

望年会のご案内

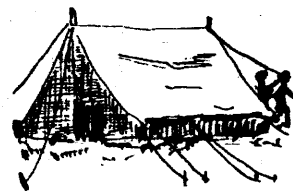
急に寒くなりました。みなさま方、お元気でしょうか。さて今年も早望年会の季節になりました。お誘い合せて是非ご参加ください。

- 記
1. 日時 12月5日(金) 16時半～19時
 2. ところ 高知城ホール
 3. 会費 5500円

私達が係です。はがき又は電話で申込んで下さい。

〆切り 12月1日

- ・窪田一郎 0888-44-0333
- ・溝淵和江 08875-2-5617
- ・加藤 菊 0888-75-4564



高退協・山の会共催 新年初歩きと 新年会へのご案内

恒例の初歩きと新年会は第4回を迎えました。1998年1月5日(木)下記の要領で行いますのでご家族お揃いでどうぞ。新年会だけでも参加出来ます。

初歩き (1月5日)

J. R. 朝倉駅8時集合
宗安禅寺—朝倉古墳—朝倉神社—野中婉居址—朝倉城址—針木浄水場—陸軍墓地—軍馬鳳龍之墓

新年会

朝倉国立病院高等看護学院バス停に
午後2時30分 集合
2時40分すぎ 出発
会場 スポーツパレス春野(TEL0888-42-0011)
会費 4000円
5時20分終了 播磨屋橋まで送りあり
申込み先
窪田一郎 0888-44-0333
竹島寛之 0888-32-1097
12月20日までに申込みください。

お当家 旭 朝倉 鴨田地区の会員

での政治的スタンスを変え
ると公表するという事が次
々と表面化している。行き
つもどつていた農民の
政治意識が、ぐっと前に進
むという手応えを感じる今
日ではある。(一)



退職互助会に 助成を申請

本年度から退職互助会は
退職者の活動に対し、50万
の予算で助成を行うことに
なりました。
これをうけて高退協と会
員は、職美展や夏季学習会
テニスクラブや空襲展に関
連する行事などに助成を申
請しました。
申請に当たって、助成の
要件が特定の活動のみを想
定して片寄っており、退職
者の様々な活動を平等に
助成するよう、とくに機関
誌「こうたいきよう」など
へも助成するよう改善を求
めました。

後援会に加入を

西岡るり子後援会の資料
を同封しました。
ぜひ加入して「国民が主
人公」の政治を実現するた
め、お力添えをお願いしま
す。

草声老話

秋というのに暑
が続いた。折から
の地球温暖化論議
の中、その故かと
疑っていた。
ところが十月末
になつて急に寒い。
会員K氏は、「夏から急に
冬じゃねえ」という。よく
「総論賛成、各論反対」と
いうことがあるが、温暖化
問題では、入口の総論で希
薄の度差が大きいようだ。
地球の将来を考へて本気の
取り組みが始まらないと手
おくれになると思うのだが
大学生のサツカーサークル
に顔を出したら、急に寒
くなつたためか風邪を引い
たと言つて練習に参加しな
いのが三十名中六人もいた。
その連中と話しているうち
全員が殆ど毎日朝食をとつ
ていないという。他の連中
も含めて、こんこんと、一
日のエネルギー源を朝とる
よう言つたのだが実効はど
うであらうか。

しかし、これは大げさに
言うとも民族の将来にもか
わる重大事に私には思える。
忙しい合間をみて、農?
作業をしてはいる。数年前か
ら南瓜に挑戦、万次郎と云
う多産種(一株で上手に作
れば百個はとれる)を三年
続けた。初年度約五十個収
穫、今年、受粉後実をつけ
たものに、竹の棒を目印に
立て約四十本、あちこちに
配ろうと手ぐすねひいてい
た。ところが全部腐つてし
まい収穫ゼロ。なめくじ、
かたつむり、それにおそら
くコホロギが犯虫らしい。
かじられたところから、全
体へとくさつていく。
プロの百姓さんにいろいろ
る教えを乞うが、当然知っ
ていることと思つて、初歩
ぬきに、その上を助言して
くれる。こちらは基礎が出
来ていないので思わぬ失敗
をし、あとで笑われる。と
ころで今の百姓さんの経営
は本当に大変である。この
ままでは気力も萎えてしま
うと言ふ。
西岡るり子さんの話にな
り、米の自由化に反対を貫
いたことも話題になつた。
意識の大きな変化を話の中
で感じるように思う。農協
や経済連のトップがいまま

「秦東寺日記」抄
坪井 幹之

九月

「五日」久しぶりに「老泳会」に参加。意外に泳ぎは軽く、一安心。「高齢利用者登録証」をもらう。記載された番号によれば百二十六人目である。「六日」七月二十六日に予定していた「読書会」、二つの台風の関係で延び延びになり本日開会。午前中は豪雨で心配したが、結局4名の参加。話題の中心は時節柄「台湾問題」。戦前、台湾在住の経験のある佐伯さんより貴重な話を拝聴、参考になった。次回のテキストはみなさんの意見を聴取して決めることにしてお開き。

「九日」かつての勤評の闘士、藤本幹吉、作家・土佐文雄さんの告別式に参列。故人を偲んで参会者多数、山原さんをはじめ各界より弔辞。同世代の死去、寂寥感ひとしお。「さようなら、カンキさん」「十二日」「老泳会」に参加。プールの外に出ると、肌にか

四プロ交流集會に7名
各県の連帯深まる

全退教四国ブロックの第5回交流集會が、10月21・22日、愛媛県北条市の国民宿舎「鹿島」に四国各県代表71名、うち高知県26名（高退協7名）が参加して開催されました。

午後3時から全体集會があり、西森稔会長のあいさつ、地元愛媛退教副会長の歓迎あいさつの後、全退教栗田事務局次長が、「社会保障をめぐって」と題して記念講演を行いました。その中で、栗田次長は「医療保険の改善で、生存権が脅かされている。もっと大きな怒りの声をあげよう」と強調しました。

風の感触。「十七日」一時よりニュースの發送準備。つづいて事務局會議。議題は「米寿の祝い」など九項目。四時より拡大事務局會議。事務局のメンバー以外に十四名参加。議題は来夏の参議選の件。冒頭、山原さんと西岡さんより挨拶を受け、討議に入る。満場一致で西岡さんの推薦と確認団体への加入を決定。最後に林さんより県議會議の傍聴についての要請あり。終了後「竜馬茶屋」にて有志談話。

「二十一日」「山の会」九月例会。参加者十六名。筒上山を予定していたが、前日の天気予報で陣ヶ森に変更。小申田登山口より山に入る。七合目ぐらゐで道は藪に蔽われ、やむ無く退散。降石原側から登り直す。陣ヶ森を経て、丸山広場へ。ススキなど秋の草花の中で昼食。恒例の記念写真を写す。ハブニングの多い一日であったが、幸いにも予報は外れ、天気は上々、秋晴れの山行を楽しむ。

全退教学習交流集會
中岡鉄夫

と宝殿寺（ホウゴンジ）を見学、宝殿寺では一遍上人についてのお話もあり、有意義な見学となりました。閉會式を愛媛県教育會館のホールでもち、交流会の成功を喜び合うとともに、今後の連帯強化を誓い合いました。来年は香川県で、高退協からの参加者は岡崎、窪田（充）、浜田（昌）湯浅、梅原、西森稔でした。

十月

「二日」北歐ツアーの打合せ會を地元の公民館で開く。出席者十五名。（現在、参加希望三十六名）期日は七月二十七日より八月十日の間とする。訪問先の希望を出し合う。具体的な旅程を旅行社に提示してもらって、更に検討することにする。

「八日」ヒマラヤトレッキングに出発。同行十名（うち高退協会員は山本圭一、田辺復逞、上岡積、渡辺怜子、坪井幹之の五名）。「二十二日」ネパールの旅を終えて、全員無事帰国。さすが「世界の屋根」、感動の十五日間であった。何かの機会に報告を。

「三十一日」「老泳会」に参加、ノルマの距離を泳ぐ。今年もあと二カ月となる。



『高齢者協同組合』
設立総會

11月2日RKCホールで開かれた高知高齢者協同組合設立総會は三〇〇人余が集まり、大成功を収めました。高知は全国で一七番目の設立ということで、先進都府県からの参加もあり、いまひとつ内容が掘めていない県内参加者も大いに共鳴できる状況が生まれたという内容でした。さしあたり一〇〇〇名を目標でということが発足しました。事務局長と理事長はあとでもっと上を目指そうという話をしていました。

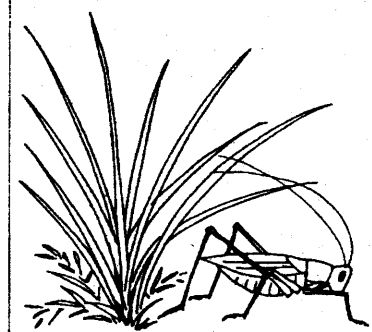
佐渡・新潟の旅

十月二十一日、互助会の二泊三日の研修に参加。総勢八十名。好天続きで北国も暑かった。佐渡の渡しはジェットホイール。時速八十キロで霧のしぶきをひいて走る。

島は静かで車は少ない。信号機一つ。名所巡りのバスは同じ道を何回も通る。畑には無数の渋柿が日ざしの中で光っている。小水港。紺がすりに紅腰巻の映えるたらい船はモノコックの化学製品。前に立つて櫂で漕ぐので前輪駆動だ。二・三人のせて一寸廻るだけ。

砂金採り。小川の両岸に男女がしゃがんで皿をゆすっている絵がガイドブックにあったが、こちらはまるで工場。長い机の上に水を張った砂を大勢の客がすくっては眼をこらしている。金が見つからぬので、係に砂は毎日取り替えているのか尋ねたら、黙って二粒拾ってくれた。あとねぼぼって四粒拾う。

金山。宗太夫坑に入る。数十体のロボット人形が音響入りで探掘作業を再現している。排水作業が一番しんどそう。気味が悪く早々に出る。約四百年で七十八トン産出。日本一という。グラム千三百円とすれば一十億。年平均二億五千万。これは多いか、少ないか。新潟に戻り、阿賀野川河畔「豪農の館」に入る。敷地九千坪。佐渡の千石船の里が三つ入る。千二百坪の建物並び、中では西郷、勝、慶喜ら明治の超有名人の書が目をはひく。田畑千四百町、山林千町、小作人二千八百人、作徳米三万俵だったという。新潟米キロ六百円とすれば地主と小作人の年収いくば。今の企業や暮らし向きと比較するのも面白い。（松下敏彦）



老・眼・鏡

毎年師走がくれば、「忠臣蔵」のテレビ上映がある。いまだに「忠臣蔵」の人氣は衰えていない。皆さんも芝居、講談、浪曲、映画で色々な「忠臣蔵」を楽しんだことでしょうか。戦後のNHKや民放での「忠臣蔵」も面白く観られたと思いませんか。

書物では、大仏次郎の「赤穂浪士」をはじめ森村誠一の「忠臣蔵」。「吉良忠臣蔵」、小林信彦の「裏表忠臣蔵」などを読んでいた。ところが最近、新潮文庫で池宮彰一郎著の「四十七人の刺客」と「四十七人の浪人」を読む機会を得た。実に上手な「物語り」だ。と感心した。大石内蔵助の

米寿のお祝い

杉村早雄氏
成瀬孝一郎氏
浜田教義氏

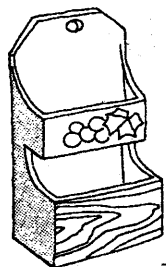


おめでとうございました。改正された内規にしましたが、米寿になられた右記3名の方にお祝いを贈りました。それぞれの方から会員の皆さんにお礼の言葉をいただきましたが、浜田先生から次のようなお礼状がとどきましたので、紹介します。

この度はわたくし達老齢者のために特別に米寿のお祝いを頂き有難うございました。幡多支部では支部長の小野昭様が有志の皆様と呼びかけられて九月二十九日中村市朝比奈旅館でわたくしの為に米寿の祝賀会をして頂き、二十余名の会員が集まって心の籠った集いを持ってくれました。その席で高退協からの御祝いを受け取りました。

私が幡多支部の中では最初の米寿のお祝いを頂いた第一号になりますので、これから第二号、第三号と該当者のお祝いが出来るように皆様の長寿をお願ひしてお礼の言葉を申し上げた次第でありました。

吾が米寿ことほぎくるる
友垣のあつきころ
ありがたきかな
九月三十日
大方町 浜田教義



生き態と人間像、討ち入りの戦闘場面は、著者が戦場で死線をくぐってきた人物だけにとてもリアルに描き出している。それに、大石と色部や千坂の知恵比べ、柳沢吉保の政治的画策。さもありなんと、感心させられる。お暇の折、一読されることをすすめます。

(岡崎)



△会員の消息

(包国祥一さん) 鎌倉在住ですが2ヶ月くらい前より入院加療中の方です。
(中田四一さん) 高知生協病院に入院。八月はじめて退院されもとの生活に戻りつつあるとのこと。
(依光慶一さん) 二月に南国中央病院に入院され現在も加療中とのこと。
(中村晋一郎さん) 亀井クリニックに九月上旬に入院。一ヶ月あまりで退院され元気を取り戻しつつあるとのこと。
皆さんのご回復をお祈りいたします。

おねがい

会員の病氣や動静その他知らせてやりたいことなどありましたら事務局員までご連絡ください。

慶弔内規の改定について

9月17日の事務局会議は「慶弔内規」の一部を次のように改定しました。今までは、米寿の祝として10,000円相当の記念品を贈ることにしていましたが、品目の選定がなかなか難しいということで、祝金に変更しました。

- (1) 死亡見舞 10,000円
- (2) 米寿の祝 10,000円
- (3) 入院見舞 3,000円 (入院期間が1カ月以上にわたる場合、本人または家族よりの申請に基づいて適用)
- (4) その他、事務局会議が必要と認めた場合 相当額
- (5) 運用の細目については、その都度事務局会議で検討の上執行する
- (6) 適用は1992年4月1日以降とする

私の健康法

人前で喧伝するような特別な健康法があるわけではなく、普段の生活の一端で勤弁願います。

健康の基本は食事・起床後冷水一杯(一番簡単)・毎日二十五種目摂取を目標に、朝食はパンとアロエジュース(アロエ、牛乳、リンゴ、バナナ、キウイ、ニンジン)をベースに時々モロヘイヤ、ヤーコン、ウコン(卵、季節の野菜、果物の一つ二品。昼、夕食は専らごはん、骨粗しょう症予防のため魚類を多く、野菜、煮物など所謂「おふくろの味」風。

次に運動・数年前肥満、血糖値を指摘され運動するようアドバイスを受け、困惑していたところ、テニスに誘われ、週二回下手なテニスで走りまわっている。他に田舎へ百姓の真似事をしに行くが、行く度に畑は雑草の山、地球温暖化防止にいささか貢献している次第。

現職の一時期、胃腸の変調、飛蚊症に悩まされたことがあったが原因はストレスの蓄積であつたらしい。人間どんな良薬・療法より、身体を動かし、快い汗を流し、ストレスを発散することが最高の健康法だと思えます。

※モロヘイヤ・ヤーコン(ヤーサン)ではありません、血糖値に効能あり?但し実効の保証はしません)の種ご希望の方はお分けします。

(K)



「安居溪谷」 8月21日(木)

中内みち代

石の色映えて水澄む五色川
澄む水のコバルトブルー谷深し
吉本伸秋

泉の字の涼し乙女の像涼し
岩青く水いよよ澄み涼新た
小笠原さちを

轟々と放つ瀑布や花さびた
蟬時雨悲話を秘めたる祠とや
「長月句会」
中津溪谷 9月4日(木)

田所たねを
ピン玉の一つが残り夏終る
曲る毎爽風生るる溪の道
吉本伸秋

幽谷の赤き岩肌隠れ滝
秋茜中津明神雲もなし
小笠原さちを

三様に落ちて雨竜の滝とかや
滝割れて岩の上走る小滝かな



訃報

会員の安岡智泰先生が、去る七月十五日に亡くなられました。ご冥福を心からお祈り申しあげます。



高教組だより

カンパのお礼
高教組委員長井垣政利

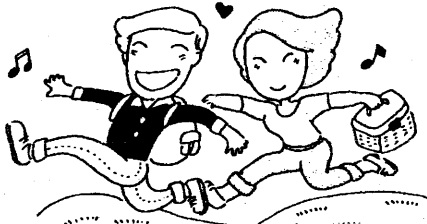
教職員に勤務評定にもとづく差別賃金を導入しようという人事院の企図に対し、第二の勤評闘争と位置づけられた私たちのたたかいは始まっています。

先号の「高退協だより」で皆様に、協力のお訴えをさせて頂いたいただきましたところ、11月7日現在で約百人の方々から合計16万円のカンパを寄せて頂きました。素早い、そして力強いご支援、心よりお礼申し上げます。おかげさまで7月23日、および10月16日の中央集会・行動には高教組も延べ45人の代表を送り、全国連帯の責任を果たすことができました。

両集会とも約五千人の教職員が参加をし、文部省包囲抗議集会や議員要請行動など近年にない規模で展開されました。その結果、勤評にもとづく差別賃金の導入については、地方の人勤段階で当面歯止めをかけることができました。しかし高知県の勧告内容にみられるように、「勤務成績の評定のあり方など検討してゆく必要がある」とし、導入の方向を示唆しているのが全国的傾向です。

断固阻止するため、年度末から来年度にむけてさらに強力なとりくみが予定されています。高教組は全国での運動に呼応しながら、国内での取り組みを強め、当局に導入の断念をせまるとして、今後ともよく決意です。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「山の会」第7回海外旅行
参加者募集
期日 来年7月27日～8月10日の間
参加ご希望の方は坪井までご連絡下さい。資料をお送りします。



多くの会員から 10万余のカンパ

高教組の要請にこたえ、10月14日現在、90名の方々が寄せられました。私たちが努力のあとをふまえ、さらなる民主教育の発展のため役立ててくれることと思えます。ご協力ありがとうございます。



シンポジウム 「地域からの 教育改革を考える」

「地域からの教育改革を考える」シンポジウムが、去る9月27日に県内外二百名の参加のもと、高知市JA会館で開催されました。パネリストは四氏。県教組の国松委員長は土佐の教育改革の意義を強調するとともに、研修など「必ずしもバラ色ではない」と指摘し、今後の民主的取り組みの重要性を提起、北海道宗谷教組、高知市PTA役員、明治大学の三上教授のそれぞれ報告を受けて、高校生を含めた一般参加者も討論に参加し、多くの意見が発表されました。



「子どもと教育を守る 県連絡会」総会

九七年度総会は九月二八日高知城ホールで開かれ、高退協からは五名が出席しました。西森総代表世話人の開会のあいさつのもと、明治大学三上昭彦教授の「土佐の教育改革を考える会」の特徴と背景、今後の課題、期待すること等の講演がありました。その後「ゆきとどいた教育をすすめる三千万署名推進」などの運動方針が確認されました。役員改選では西森総、鍋島啓子、山岡美和子、国松勝の各氏が世話人に、石元巖氏が事務局長に選出されました。



10・21統一行動に250人

思い起こせば、この10・21が始まったころから人勤の十月実施が九月になり、やがて五月完全実施となつたように思います。今年の集会は、去年に引き続き中央公園に約二五〇人、山原さん、西岡さんの連帯のあいさつ、新ガイドラインを撤回させようとの決意の表明、など力強い発言が続きました。集会後帯屋町をデモ行進「憲法を守れ」「安保廃棄」「新ガイドライン反対」のシュプレヒコールをとどろかせました。(窪田一郎)

相撲三知識 二十三

林 勤

決まり手と勝負の決め方(4)
○勝負の決め方

昭和三十六年から四十三年までは、大鵬と柏戸が君臨した、いわゆる柏戸時代である。その柏戸は、前棒(まえみつ)を取って一直線に走る(前へ出る)相撲であり、大鵬はじっくり相撲をとるタイプであった。剛の柏戸、柔の大鵬と言われた。相手をのし倒すという感じの柏戸の寄り身は、すかすかと胸のすくような速攻であったが、腰高で寄るのでも、よく打つ棄られたり、勢い余って土俵下へ転落して怪我をしたこともある。今の曙と貴乃花がこの両横綱によく似ている。曙は腰高で一ぺんに出て行って叩き込まれたり、また、相手と一緒に土俵下まで飛びこけることもある。一方の貴乃花は、寄る場合は土俵際でぐっと腰を下ろして脛と腰で相手をせり出すようにして、自分は土俵の内側にいる。相手を土俵の下に突き落とすことは滅多にない。相手を投げた時も、自分の姿勢は殆ど崩れていない。ましてや、一緒に倒れることはまずない。これは、よほどの力の違い、技の違い、がなければできないことである。全力で突っ走り、相手と一緒に土俵下まで飛び出したり、渾身の力をふり絞って相手を投げ倒し、自分も一緒に倒れたりするのは、全力を出し切っているという清澄しさはあるが、殆ど土俵から出ることもなければ、倒れることもない貴乃花の相撲には、土俵上の美がある。貴乃花のきれいな勝負の決め方やどんなに動いても下半身が崩れない点を、次の一月場所には、他の力士ととくと見比べていただきたい。貴乃花には天性のものもあるが、不断の努力(入念な準備運動、十分な稽古)によって作り上げられたものである。大鵬、北の湖、貴乃花ら一番強い横綱が、一番よく稽古をしている。どの親方も言っている。